

第27回木津川市都市計画審議会議事録

- 1 日 時 令和2年11月20日（金） 午前10時から
- 2 場 所 木津川市役所 全員協議会室
- 3 出席者 （委員）宗田会長、大庭委員、片田委員、西村正子委員、牧井委員、
兎本委員、伊藤紀味枝委員、森本隆委員、酒井委員、西村祥一委員、
大江委員、勝山委員、公文代委員、福井委員、岡橋委員、菅野委員、
伊藤孝子委員

（木津川市）田中副市長、滋井部長、河合理事、竹谷次長、大黒参事、
島川担当課長、北岡課長補佐、兼嶋主事、井上主事
- 4 議 事
日程第1 第2次木津川市都市計画マスタープラン（素案）について
- 5 その他
- 6 閉 会

○北岡課長補佐 定刻となりましたので、ただいまから、第27回木津川市都市計画審議会を開催させていただきます。

現在、17名の委員の御出席をいただいております。委員の2分の1という定足数を満たしており、当審議会条例第5条第2項の規定により、本日の審議会が成立しておりますことを御報告申し上げます。

それでは、お手元に第27回木津川市都市計画審議会資料を御準備いただきまして、資料の御確認をお願い申し上げます。

まず、1番目、次第でございます。2番目、配席図でございます。3番目、委員名簿でございます。4番目、木津川市都市計画審議会条例でございます。5番目、木津川市都市計画審議会条例施行規則でございます。6番目、資料1「第27回木津川市

都市計画審議会説明資料」でございます。7番目、資料2「第2次木津川市都市計画マスタープラン（素案）」でございます。以上でございます。よろしいでしょうか。

では続きまして、本日の日程でございますが、恐れ入りますが、先ほどの次第を御覧ください。

初めに、田中副市長からの挨拶、そして議事日程は日程第1として、「第2次木津川市都市計画マスタープラン（素案）について」をお諮り申し上げます。

その後、その他・閉会といった流れで進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

なお、本日の会場の都合によりまして、終了予定時刻を12時までとさせていただきます。皆様のお協力のほうをよろしくお願い申し上げます。

それでは、審議会の開催に際しまして、田中副市長から御挨拶申し上げます。

○田中副市長　皆さん、おはようございます。

本日は、第27回の木津川市都市計画審議会をお願いいたしましたところ、皆様方におかれましては、公私とも大変お忙しい中、また今現在、日本中世界中が大変な状況にありますコロナ禍の中でありまして、我が木津川市のほうでも、38名の市民の方が罹患をされておられます。皆様方におかれましても十分、コロナ対策につきまして、御注意をいただきたいと思いますと思っております。

また本日は、この都市計画審議会の開催に当たりまして、河井市長が皆様方に普段から、何かと世話になっていることを含めまして、御礼と御挨拶を申し上げるべきところでございますが、あいにく他の公務と重なっておりまして、この場所に来ることができません。河井市長のほうから、皆様方にはくれぐれもよろしくお伝えするようということで伝言を預かっておりますので、御許しをいただきたいと思います。

代わりまして、市長から挨拶文を預かってまいりましたので、代読をさせていただきます。

本日ここに、第27回木津川市都市計画審議会をお願いいたしましたところ、宗田

会長をはじめ、委員の皆様方には、何かと御多用の中、御出席を賜わりまして誠にありがとうございます。また平素より木津川市のまちづくりに格別の御支援と、御協力を賜わっておりますことに、厚く御礼を申し上げます。

さて本日、皆様方に御審議いただく案件につきましては、第2次木津川市都市計画マスタープラン(素案)についてでございます。前回の都市計画審議会で諮問いたしました第2次木津川市都市計画マスタープランの策定につきまして、その素案を取りまとめたので、内容を御審議いただくものでございます。よろしく御審議賜わりますよう、お願い申し上げまして、誠に簡単ではございますが、開会の御挨拶とさせていただきます。本日は、どうぞよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

○北岡課長補佐 ありがとうございました。それでは、以後の審議会の進行につきましては、当審議会条例第5条第1項の規定に基づきまして、宗田会長に議事進行をお願いしたいと思います。それでは、宗田会長よろしくお願い申し上げます。

○宗田会長 では、開始させていただきます。

本日は、皆様方、御多忙のところを御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

初めに、この審議会は、審議会条例施行規則第3条によりまして、公開で行います。傍聴の方の入出が可能となっておりますが、御了承いただきたいと思います。今回、傍聴を御希望の方が1名おられますので、ここでお入りいただくということでよろしいでしょうか。どうぞ入場をお願いします。

傍聴の方に申し上げることになっておりますのでお聞きいただきますが、会議を傍聴する際にはこの施行規則に従いまして、お手元に配付しております傍聴要領に記載してあるとおり御一読いただきまして、御発言等はできませんので御注意いただくということと、その要領にも書いてありますが、新型コロナウイルス感染防止のため傍聴中はマスクの着用、私どももしておりますが、お願いするということ。それから、

もし体調不良等がございましたら、無理をせずに御退席といただくということで、よろしく願います。録画等ができません、ということも願います。写真撮影も議事が始まる前ですが、もういいですね。

それでは、議事に先立ちまして、議事録署名委員の指名をさせていただきます。これは、施行規則第4条第1項の規定により、議事録作成については、会長の私と会長が委員の中から1名を指名することになっておりまして、名簿順でしておりますので、今回は兎本委員にお願いすることになっております。では、よろしくお願いいたします。

それでは、次第に基づきまして、議事に入ってまいります。

まず第1にこの第2次木津川市都市計画マスタープラン（素案）についてを議題にします。あらかじめ申し上げておきますが、今回このマスタープランを皆さんに見ていただいた上で御意見を事務局のほうで拝聴に伺いまして、私のところにもその報告が届いておりますが、どうも私も点検したところ、大変まずいものを見せてしまったというか、非常に完成度の低い段階で出してしまったと思います。私も会長としての責任が足りなかったなということを大いに反省しておりますし、こういうものをこういう段階でお見せすることが妥当だとは思っておりませんので、私は大いに反省しているということを議事録にしっかり記載して、その上で改善すべき点は、きちっと改善していかないと。何でこういう事態になったかということを、私も大いに反省しますが、この経緯を調べておりまして、色々なルートを通じて、こういう事態になったことを反省するとともに、事故原因をよく見て、確かめた上で対処していきたいと思っておりますので、よりよいマスタープランとしていくということがあるかと思えます。

あらかじめ、御指摘いただいた点を私なりに理解しますと、まずコロナに対する認識が非常に曖昧というか、何も書いていない。ほとんど書いていない。それから管内閣に変わったことによって、どういう社会的な背景が変わったということも、まだ、

もう既に始まって1か月以上経つんですけど、そういう時代認識がないということが、あるのと同じように、第2次のマスタープランですから、第1次ときは、合併して最初につくったマスタープランでした。だから三つの町が集まって、何とかするというマスタープランだったんですが、今回は、市政を施行して初めての本格的なマスタープラン。だから当然木津川市が持つ権限も随分変わってきています。だから、都市計画行政のあり方も根本から変わっているということなんですが、ほとんどそれが触れられていない。ですから、何のために市政を引いたのかということもよく分からない状況になっているということですね。

それから委員の皆さんも何人からか、この人口減少のことをおっしゃっていて、岡橋委員からニュータウンとして、一気に開発を行った結果、一気に人口が増え、一気に高齢化が進み、確実に人口が減少していく。今後各地区がゴーストタウンにならないような取り組みが必要だということをおっしゃってました。片田委員は、城山台小学校のことをどう反省するんだという御指摘が大いにあったわけで、これも大きな課題だと思います。

人口は、この京都府の中でもというか、この地域の中でも最後まで増えるところだと、それはそうだと思うんですね。ただ、一方で日本全体では、人口減少が進んでまして、ほかの自治体では、めきめき空き家が増えているわけですね。空き家の増加のペースは、これからどんどん上がっていく一方なんですよ。これは、酒井委員からも御指摘があったので、一方で古い町を捨てて、新しい町ばかりつくっているという状況が起こっていて、まさにスクラップ&ビルドの古い町の作り方をこの木津川市の狭いところでやっているわけですよ。だから、「古い町は捨てる」みたいなことを言っているわけです。これは、木津川市の商店街もそうだし、合併して山城とか、加茂に関しても、新しいところにポンポンとつくって、つくったのはいいんだけど、そのつくった新しいまちがここにあるように、間もなくゴーストタウンになるというわけです。

城山台小学校も急に児童が増えたんだけど、間もなく廃校なるわけですよ。それが10年か20年かということなんでしょう。その廃校になるとか、空き家になるとかいうペースが加速しているんですよ、今。人口減少が毎年、この国で50万人ずつ人口が減っていくわけですから。ついに2019年の人口減少が50万を記録しちゃって、このまま50万以上のペースが続いてくわけじゃないですか。だから、最後まで人口が増えていた、まちをつくっていた木津川市だからこそ、その転換が一番、急にのしかかってくるわけですよ。まさに城山台小学校問題もそうなんですよ。これが、もうちょっと前に開発が進んでいるんだったら、こんなことにはならなかった。予測もたったんですよ。ぎりぎりのところで、ピークに差し掛かって、いつ上りがとまって、下りに転ずるかというところで、計算し間違えたという状況があるわけで。それは致し方ない部分が大いにあるわけですが、そうは言うものの、苦し紛れにいうと、木津川市のほうだって、すぐ児童数が減るところに小学校をつくるのにも、みんなの税金を使っているわけですから、躊躇せざるを得ない状況、厳しい状況があるわけですね。そういうところが、いろんなところに、都市計画道路を1本つくるにしても、都市施設を1つつくるにしても、常にそういうような瀬戸際にいるというか、ちょうど峠を乗り越えた段階にいるところの難しさというのがあるわけです。その辺を都市計画でどう捉えるかということを書かない限り、その木津川市の次の10年間の都市計画マスタープランとは呼べないんだけど、どうもそういう議論を避けてるんですね。いろいろ厳しいことを言われまして、消防と警察から道路のことを厳しく御指摘をいただきまして、そのとおりで、消防と警察から、それだけはっきりとおっしゃられているわけですから、どうするかということを書かないといけないわけで。そのことに関しても、商業のこともいろいろ厳しくいただいていますので、そういうことも含めまして、丁寧に点検してパブリックコメントにかける前というか、かける直前まで努力をした上で、さらに市民の皆さんに出しても恥ずかしくないような、この都市計画審議会の見識が問われておりますので、そういった意味で委員の皆さん

のお一人おひとりの厳しい御意見を今日も賜わりたいと思います。

まずこの素案につきまして、事務局のほうから御説明をいただくという形で始めたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

○島川担当課長 失礼いたします。都市計画課の島川でございます。

それでは、第2次木津川市都市計画マスタープランの素案について、御説明させていただきます。恐れ入りますが座って御説明させていただきます。

お手元に資料1「第27回木津川市都市計画審議会の説明資料」及び、資料2「第2次木津川市都市計画マスタープラン(素案)」を御用意ください。

資料1は、資料2の素案のうち、現行計画からの見直し概要についてまとめたものでございますので、これに基づいて御説明をさせていただきます。

また資料1と同じものをスクリーンにも映しておりますので、併せて御覧いただきますようお願いいたします。

それでは、表紙をめくっていただきまして目次を御覧ください。

まず、第2次木津川市都市計画マスタープラン策定に係る見直し概要について御説明申し上げます。

I計画の前提 II全体構想 III地域別構想 IV都市計画の推進方策の4つに分けてまとめております。

最後に今後の策定スケジュールについて御説明をさせていただきますので、よろしくようお願いいたします。

それでは早速、第2次木津川市都市計画マスタープランの見直し概要について御説明させていただきます。3ページと4ページを御覧ください。

3ページの表の左端に記載のページは、資料2の素案のページを示しておりますので、必要に応じまして、資料2も併せて御覧いただけたらと思っております。

まず、I計画の前提の見直し概要について御説明いたします。

前回の都市計画審議会でも御説明いたしましたが、第2次木津川市都市計画マスタ

ープランの構成に係る、Ⅲ地域別構想の２．地域別構想について、木津駅東側地区及び城山台の一部を新たに独立させた区分といたします。木津駅東側地区については、地元の市街化を望む割合が増加していること、城山台九丁目１番地の市有地を市街地形成時の活用を見込んで、これを加え、（２）といたしまして、「木津駅東側地区及び城山台の一部」として、独立させた区分としているものでございます。

続きまして、（７）関西文化学術研究都市（木津東地区）及び（８）関西文化学術研究都市（木津北地区）をそれぞれ独立させた区分としております。

両地区につきましては、ＵＲ都市機構による開発が中止となった地区として同一区分としておりましたが、木津東地区は事業用地を中心とした市街化、木津北地区は里山の保全と、土地利用の方向性が異なるため、それぞれ独立させた区分とするものでございます。

続きまして５ページを御覧ください。

第２次木津川都市計画マスタープランの目標年次や、社会背景に係る記述、市内の人口・世帯数・産業のデータについて、時点更新を行います。

また、素案の２０ページから２６ページに用途地域を始めとする都市計画について記載することで、後述の各種の方針への理解を深めていただく都市計画に係る項目を今回から追加しております。

続いて、素案の２７ページから３６ページにおいて、現行計画に掲載している市民アンケート調査と今回のアンケート調査の結果を比較掲載しており、市民の意向の変化について記載をしております。

続きまして６ページを御覧ください。

素案の３７ページから４７ページにつきましては、上位・関連計画及び都市計画の現況と基本的課題について時点更新を記載しております。

続きまして７ページを御覧ください。

ここからは、Ⅱ全体構想の見直し概要について御説明いたします。

素案の４４ページでございますが、都市計画の目標を「自然と文化を身近に 未来を拓く学研都市 木津川」といたします。

現行計画の目標は、「人・自然・文化、調和と発展のまち・木津川市」でございますが、第２次木津川市都市計画マスタープランにおきましては、これを継承しつつ、第２次木津川市総合計画のまちの将来像のテーマである子どもの笑顔が未来に続く都市という点と、学研都市の持続的発展を盛り込み、当該目標を掲げております。

続きまして、８ページを御覧ください。

将来都市構造の見直し概要について御説明いたします。この項目につきましては、１１ページと一体で御確認いただきますようお願いいたします。

将来都市構造における本市の拠点に記載のとおり整理しております。

今後の人口減少社会に伴い、各拠点を中心に居住を誘導する立地適正化計画の策定を将来に見据え、新たに近鉄山田川駅周辺やＪＲ上狛駅周辺、また梅美台の近隣商業地域を地域住民の日常生活に必要なサービスを提供する「地域拠点」として位置付けます。

また、国道２４号城陽井手木津川バイパス東側に位置する田護池周辺を「レクリエーション拠点」と位置付け、市民の憩いの場の整備を検討いたします。

また国道２４号城陽井手木津川バイパスと国道１６３号との結節点において、市内外の人が利用できる多様な機能を有した、にぎわい施設の整備に向けた検討を行う「にぎわい拠点」を位置付けます。

○宗田会長　　すみませんが、委員の皆さんから聞いてきた御意見は反映されていないですね。じゃあ、さっとやって委員の御意見を反映したところを中心に御説明いただけますか。

○島川担当課長　　すみません。これらにつきましては、委員様から整備イメージが分かれるため、具体的に記載しては、といった意見であるとか、田護池周辺を位置付けた理由は、などといった意見をいただいております、御審議いただければと思っております。

ます。

次に 9 ページを御覧ください。

都市構造に係るゾーンについて、記載のとおり整理しております。

現行計画では、「市街地整備ゾーン」に木津東地区と木津北地区を位置付けておりましたが、それぞれ土地利用の方向性が異なることから、里山の保全を図る地区である木津北地区につきましては、「学研里地里山共生ゾーン」として新たに位置付け、分別いたしました。

また、現行計画で「木津駅東市街地整備ゾーン」として、木津駅東側地区を位置付けておりましたが、ゾーン名称を「市街化検討ゾーン」に変更し、主要地方道枚方山城線の国道 24 号城陽井手木津川バイパスまでの延伸構想に係る当該延伸道路の沿道及び JR 棚倉駅東側に位置する周辺を新たに加えております。

これにつきましては、委員の皆様から枚方山城線の延伸については進めていけたら、という意見を多数いただいております。

続きまして、10 ページを御覧ください。

将来都市構造に係る軸について、記載のとおり整理しております。

他府県と本市を結ぶ広域交流軸を基軸とし、各拠点及び市街地を結ぶ拠点・市街地交流軸に主要地方道枚方山城線及びその国道 24 号城陽井手木津川バイパスまでの延伸構想部分を加えております。

次に 27 ページを御覧ください。

既成市街地の方針について御説明いたします。

主な取り組みに、今後の人口減少において既成市街地に係る空き家等の増加が懸念されるため、「空き家等の適切な管理及び利活用の促進」を追加しております。

続いて 29 ページを御覧ください。

都市防災の方針について、御説明いたします。

治水・治山対策の推進として、主な取り組みに「住民の命を守る防災道路としての

国道24号城陽井手木津川バイパスの早期整備の促進」を追加しております。これにつきましても、委員の皆様から防災に関する理解が非常に大きいところがありまして、この道路の計画については、早期に進めていきたいというような意見もいただいております。

32ページ以降につきましては、これまでに説明いたしました内容に基づき、地域別に記載をしており、説明が重複いたしますので割愛させていただきます。

最終ページを御覧ください。

今後のスケジュールについて御説明いたします。

現在、各関係行政機関との調整は終了いたしており、本日、都市計画審議会にて、その素案の御審議をお願いしておりますところでございます。

来る11月27日から12月28日まで、パブリックコメントの実施を予定しており、この期間中に都市計画審議会の委員の皆様、当該マスタープランに対する意見照会を書面にて行いたいと考えております。

本日の御審議を踏まえ、資料をお持ち帰りいただき、忌憚のない御意見を賜われればと考えております。

頂戴いたしました御意見の本マスタープランへの反映につきましては、個別に調整させていただきたいと考えております。

意見照会に関する詳細につきましては、通知文を送付させていただきますので、よろしく願いいたします。

そして、今年度3回目の都市計画審議会を1月22日の金曜日に予定をさせていただいております。委員の皆様から頂戴いたします御意見に対する考えと、パブリックコメントの結果を御報告させていただき、3月議会に上程する第2次木津川市都市計画マスタープランの原案として取りまとめたいと考えております。

以上のとおり、進めていく所存であり、3月議会への上程まで、非常にタイトなスケジュールとなっております。委員の皆様におかれましては、何とぞ御理解と御協力

をいただきますようお願いいたします。

長くなりましたが、以上で「第2次木津川市都市計画マスタープラン（素案）」についての御説明を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○宗田会長 ありがとうございました。このスケジュールに関しては、大庭委員からも御意見を承っておりますので、またその件は考えますが。

ちょっと気になったのは、先ほど木津駅東側地区のところなんですが、関係機関の委員から、山城南土木事務所長の西村委員の御意見として、木津駅東側地区の市街地形成の検討について、住民アンケートの捉え方として、あくまでも当該地が市街地形成のポテンシャルが高い土地であって、市として検討を行う際の一助として取り扱うという整理をしておいてほしいと。「住民が市街地形成を望み得るから、市街地の形成を検討するという因果にはならないように注意されたい」というのがあって、非常に適切な御指摘をいただいているんですが、ここにアンケートが入っていると、まさにこれを使って説明しているようになっているんですね。見ると都市マスのためのアンケートでもなくて、無理やりつなぎ合わせて、ここでこれを書いているというように、西村委員の御指摘だとそうなるし、私も全くそう思うんですが。これはやってはいけない手ですよね。行政文書をつくるときに。何でこういうのが入ったかというのが、気になる場所なんです。

○竹谷次長 御質問にお答えします。JR木津駅東側の土地は、約50ヘクタールあるんですけれども、学研の木津中央地区、城山台と旧市街地のちょうど間にあります。木津川市にとっては、まちづくりの要となる土地であるというふうに認識しております。ここは農業が盛んな地域であったんですけれども、非常に土地所有者、農家の方が高齢化していまして、後継ぎがいらないという状況になっておりますので、地元がこの土地利用を考え、検討したいという思いもございます。そういうことで、10年前と現在の土地所有者の意向調査を実施して、その比較をしたわけでございます。

当然、木津川市としましては、木津駅東側の地区につきましては、市街地形成のポ

テンシャルが高い土地でございますので、そういった理由で計画的な市街地形成に向けた検討を行う必要があるというふうに考えております。以上でございます。

○宗田会長 御説明がよく理解できなかったのですが、住民の方にしたアンケートがここに載っているんですか。

○竹谷次長 J R 木津駅東側の土地所有者に対して行ったアンケートで、10年前と令和元年度、全く同じ質問をしていますので、その比較を検討した表でございます。

○宗田会長 それは、27ページの市民意識調査ではなくて、どこですか。34ページの②木津駅東側地区住民アンケート調査ということですか。ここを残したいわけですね。

○竹谷次長 木津川市としても、この地区の意向というのは、非常に大切なものだと思いますので、残したい部分だと考えております。

○宗田会長 それを残すことに、私も異存はないんですが。ただ地元の地権者が望むとおりにまちをつくっていいかという、都市計画はそうはなってないですね。市民のためのものですもんね。だからわざわざ都市計画審議会があるわけですから。地元の地権者が望んでいるから、じゃあここにまちをつくりますって、みんなの税金を使って、あんたの土地を買い上げてやっていいかという、そうは問屋が卸さないわけであって、市としての合理性を説明し、市民全体の合意が形成される。ここに市議会議員の先生方がいるんで、市議会で決まるんでしょうけど。そのところの説明に市民アンケートを持ってきているんですか。

○竹谷次長 一番ベースの部分で考えております。当然、市としても大切な位置に立地したエリアですので、市街化を図っていきたい。また、地元でもこういった意向がありますよ、ということを説明したいというふうに考えておりました。

○宗田会長 ということは、市民の意見は尊重しなくていいとおっしゃっているんですか。

○竹谷次長 いいえ、地元の意見も。

○宗田会長 地元の住民と市民は違いますよね。住民と市民というのは、違うものですね。特に地権者と一般の納税者とか、納税もしていない一般市民というのは、また別ですね。

○竹谷次長 地元のＪＲ木津駅東側に。

○宗田会長 木津町の時代は、そうやって地元の意見を聞いていたらよかったと思うんだけど、さすがに市になってしまうと、新住民の方たちもいるわけだし、そこでどういうようにして、市としての公益性を丁寧に説明していくかということが求められますよね。地元の御担当が、地元の地権者の方の意見を尊重するという気持ちは、分からんでもないけど。それは公益的に正しいことですか、と言われたら、胸を張って正しいと言えないような状況もありますよね。

○竹谷次長 都市計画の考え方としましては、地権者の意向に関わらず、計画をつくっていくという、これは基本であると考えております。非常にポテンシャルの高い土地ですので、市としてもこの土地を何とか市街化に向けて検討していきたいという思いでございます。

○宗田会長 その気持ちが、さっきから人口減少ということを散々申し上げているわけで、そのポテンシャルは高いけど、人口減少に際しても、このポテンシャルを生かせるという根拠を示さないといけないわけですね。それが都市マスじゃないですか。だから人口がこのくらい増えます。従業者数がこのくらい増えます。商業計画はこうなって、だからここにこういうお店ができそうです、ということ言うんだけど。後でさりげなく残ってましたけれど、トレンドで商業床面積が増えると、イオンが上昇すれば、さっと出ますよね。だけどそれが、イオンが増えれば増えた分だけ、ほかの商店街の店は潰れていくわけですね。一方のポテンシャルが上ったら、一方のポテンシャルが下がって、マイナスのほうが大きく働いてしまうという状況が厳しい社会じゃないですか。さらにそこにコロナが乗っかってきて、ｅコマースとか、そういう状況の中で、ポテンシャルが高いから活用したいということをどうやって実現

するんだということが求められてますよね。その説明が必要ですよね。そういうときに「市民が望んでるから」というのは、ちょっと無責任じゃないかなと思うんですけども。

○滋井部長　建設部長の滋井でございます。本日は、皆さんありがとうございます。今、宗田会長のほうから、いろいろと御指摘をいただいておりますけれども、その箇所につきましては、本当に兼ねてから、木津町時代から、まちづくりを進めていかなければならないということで、木津川市の総合計画、また木津町の総合計画、それと木津町の都市計画マスタープランにも位置付けをさせていただいているところでございます。

先ほどからまちづくりのお話が出ていますけれども、今後日本の人口というのは、減っていく。この木津川市が今後も持続可能なまちを続けていくというためには、やはり木津駅の東側ですね、ここをしっかりと、どうしていくかという議論が必要だというふうに考えております。この場所につきましては、駅前ということもありますし、50ヘクタール、結構有望な用地でございます。ここにやはり人を来ていただくようなまちづくりを考えていく必要があるというふうに考えておりまして、ここに都市計画マスタープランの今回のところにも位置付けをさせていただいたというところでございます。以上です。

○宗田会長　私は東地域の開発に反対しているわけじゃないんですよ。問題は、それをどう実現するかということを都市計画マスタープランに書かなきゃいかんわけで。具体的にしましょうね、という話をしたいんですよ。だから、日本はアメリカに勝つべきだ。だから戦争しよう、ということをやったら、悲惨な結果になるわけですね。勝てないわけだから。戦略をどうするかとか、それを書くのがマスタープランであって、岡橋委員の質問に、立地適正化計画を策定する、検討しているって、実際に我々も立地適正化計画をほかの自治体でつくってますけど、立地適正化計画といたら何かといたら、都市計画マスタープランの詳細版なんですよ。詳細に書いてみればみ

るほど、立地適正化は難しいんですよ。人口減少に対処するのは難しいということが分かるだけなんですよ。だから、駅前を開発するというのは、不可能ですということが分かるだけなんです。その不可能をどう可能にするかということを書くことが、我々の仕事なのに、高らかに目標をうたったって、部長さんの意気込みは分かるけど、それをどうするかというのを考えるのが我々の務め、それが審議会。そのための審議をしているわけじゃないですか。だから強い思いは分かったんだけど、本当にできるのか、できないのかということの大前提にここで検討、そのための資料を書き込んでいるんですよ。そのための資料を集めてきて、じゃあ具体的にどうすればいいのか。場合によったら、まち全体の商業計画を立て直して、今木津駅東側地区に商業事業者の方に出資してもらわないといけないわけだから。わざわざお店を銀行から借金して、そこにお店を開いてもらわないといけないわけだから。1年で営業しました、お客さんが来なかったです、撤退します、というリスクを冒させるわけにはいかんわけだから。だからみんな尻込みして、出てこないわけじゃないですか。フレスコさん、今、来てくれてますけど。そういう状況を一個一個説明できるようにしていくのが、このマスタープランなんで、そういうところの大きな穴が開いてますね、ということを申し上げているわけです。だから市民が望んでいるからとか、地権者が望んでいるからと言え言えほど、我々は責任逃れしているみたいになる。あんたが言ったからやってやるだけじゃないか、できなかったらあんたら責任とれ、みたいなことになっちゃいますよね。市民は責任を取れませんし。地権者の方だって責任の取りようがないということになってくると思うんですよ。すみません。何かこんな話をしていますが。

○滋井部長　決して、市民さんのせいとか、そういうことではなくてですね。都市計画として木津駅東をどうしていくかということを我々は議論すべきであるというふうに思っております。

今、細かい開発手法の話とかですね、そういうことも書き込んでいければいいかと思うんですけれども、現時点では、そこまで書けるかどうかというところも御審議い

ただければと思います。

○宗田会長　書けないということは、できないということじゃないですか。

○滋井部長　開発手法の内容でございまして。

○宗田会長　いやいや、開発手法の内容じゃないですよ。区画整理だったら成功するというもんじゃないですよ。市街地再開発でやったら成功するというもんじゃない。手法じゃないじゃないですか。社会情勢とか、ソーシャルダイナミックスというか、人口がどのくらいいて、どのくらいの消費があつてとかいう問題じゃないですか。どのくらい土地需要があつてとかいう。

○滋井部長　もちろんそれもございしますけれども。やはり今後の需要予測ですね。そういうことも必要だとは思いますが。

○宗田会長　そうそう、需要予測が必要なんですよね。だから、需要がないところに、まちをつくるということはできないわけですよね。

○滋井部長　そうですね。だから、その需要予測も含めて。

○宗田会長　需要予測があるところにまちをつくりましょう、というスタンスでないとは。

○滋井部長　この場所につきましては、城山台を見ていますと、やはり駅に近いということで、たった8年間で8,000人の人口が延びたんです。それだけ城山台のポテンシャルがあつたと思うんです。なおかつ、その間にある土地ということになりますので、我々は需要としては、やはりあると。

○宗田会長　いやいや、だからさっきの城山台小学校の話も横であるわけですが、その需要をどう的確に捉えるかということをやってくれば、小学校の問題が起こらなかったわけじゃないですか。その辺の需要予測とか、計画的な検討作業が不十分だったから、もうちょっと丁寧なプランをつくろう、都市計画をやろうね、ということなんです。私が言いたいことはね。だから、そこの検討作業をしていかないと、こっちはできた、こっちはひどい目に遭いましたみたいなことになっちゃって、責任放棄も

いいところになると思うんですよ。それは、こういう公文書で残していいかと言われたら、どこかで追求されるし、もしかすると小学校の問題が訴訟とかに展開したら、何でこんなことになったんだということを裁判所で、当時の部長が呼び出されたり、当時の都市計画審議会の会長が呼び出されて、説明しなきゃいかんということにならんとも限らないので。そういう事態がいろんなところで起こっているんで。本当に襟を正すべき時期に来てるなという感じがしますので、根拠は何だというのを、私が今ここで言うのは簡単だけど、裁判長から言われるときついものがありますから。

○大庭委員　私の理解不足かもしれないんですけども。宗田会長がおっしゃっているのは、例えばこの95ページの木津駅東側地区及び城山台の一部の地域別の構想が書かれているんですけども、これは単に検討と書くだけじゃなくて、需要のことも踏まえ、あるいは、その他いろいろな社会情勢を踏まえて、検討の内容を頭出しすると言いますか、そういうことをしっかりと明記する必要がある、そういう趣旨の御発言でしょうか。

○宗田会長　ええ。立地適正化計画のときに、ここで検討と書いておいたって、ここに都市機能誘導区域を持ってくるかとか、すぐにその話がきますよね。一方では、その説明のときに立地適正化計画の策定を検討していますと、市役所としては、お答えになっているわけですよ。

○大庭委員　承知しました。そういう意味であるならば、これまでの検討経緯だとか、過程だとか、さらに詳細を書ける部分もあるんじゃないかというふうに想像するんですけども。まだまだ検討し始めたところという感じですかね。状況がちょっと分かっていないもので。どこまで書けるのかというところも、事務局としてお考えがあるのではないかなと思いました。

それからアンケートを掲載されているんですけども。よくよく考えてみると、まちの歴史と現状のところにアンケートがありまして、果たしてここでいいのかなという気も、今さらながら思いました。現状を表しているんでしょうかね。アンケートの

置き場所といえますか、場所がここでいいのかなというのは、少し感じました。

○宗田会長　　ちょっと整理します。後でまとめてお答えになってもいいと思うんですが、私は、総合計画アンケート調査からの抜粋というのは、確かにここに置くのは、ちょっと無理があるかなという感じがしています。もう一つ34ページに関しては、今の後ろのほう、95ページとかの検討作業の中に収めるべきことかなと思いますし、地権者の意見を書くんだったら、本当に需要があるかどうかという資料をちゃんと持ってくるべきだし、いろいろ議論があると思うんですが。

○竹谷次長　　大庭先生の御質問にお答えさせていただきます。JR木津駅東側の土地利用について、検討したのか、ということでございましたけれども、まだ検討の段階までいたっていない。将来的な構想として御理解いただければと思います。事業手法の話もございますけれども、やはり土地所有者が何百人もいらっしゃいます。まずその権利関係の整理から順番に始めていく必要があると思いますので、そういうことを考えますと、区画整理が一番適切な方法かなというイメージは持っておりますけれども、詳細についてはまだ決まっていないということでございます。

それとアンケートの位置につきましては、確かに検討させていただきたいというふうに思っております。以上でございます。

○宗田会長　　だから、今のお話を伺っていると都市計画をした、丁寧に検討した上で、都市計画をつくって、都市計画に沿ったまちをつくっていくというのではなくて、地元の機運が高まってきた、みんな土地を売りたいがっている、区画整理でもう組合でもつくってやっちゃおうみたいな、人口が増えてきた時期のまちのつくり方なんですよ。それで実際に、ついこの間まではまちはできていたわけじゃないですか。ところが学研というのはそうではなくて、学研は関西文化学術研究都市という大きな構想があって、国が主導し、URが主導し、という形で大きな計画をつくって、クラスター構想とかを決めて、道路とか、そういうやり方で、本当に計画ありきでつくってきたものなわけですね。その大きな計画ありきでつくってきた、上から降りてきたものな

んだけれども、地元にとっては。そういう計画と、鉄道のない農業が衰退してきました、土地を売りたい人が増えてきた、区画整理しましょうとつくってきた、そういうボトムアップっていい意味で言ってないんだけど、そういう場当たりのまちづくりをやっていく。その二つの整合性が取れない状況にあるわけじゃないですか。それを今度、木津川市になったので、木津川市の都市計画マスタープランというもので、よく分かった上で、順番につくっていくということをしましょうね、という作業なんです。それで今、審議会の皆さんに集まっていただいて、ああでもない、こうでもないと言いながら、いろんな角度から、それをつくるということなもんだから、結構これは見過ごせないぜみたいな話になるわけですね。

○竹谷次長　会長がおっしゃるとおりだと思います。学研都市のまちづくり、都市計画につきましては、国がやりますURの事業計画の変更の承認とか、後は京都府の学研都市建設計画の変更の同意があって初めて、木津川市の都市計画の実務のレベルになってくるわけでございますけれども、この国によって変更されました事業計画であるとか、学研都市の建設計画と整合を取れた用途地域、または地区計画とかの変更手続に着手してきたわけでございます。

当然、木津川市の思いで、こうあるべきという変更はしていくことができなかったということで、先生が全くおっしゃるとおりだと思います。

○宗田会長　それで、冒頭申し上げたように、市政を敷いて、木津川市になって府との関係も大分、変わってきてて、発言できるようにもなってきたので、そろそろこの2回目の都市マスで、木津川市民の御要望を聞いた上で、木津川市としての都市マスをつくって、学研のプロジェクトも落ち着いてきたので、これからは、しっかりと木津川市民も学研の新住民、学研で開発されたところの新住民の方も結構な人数になっているんだけど、その方たちの意見も尊重しながら、特に将来、子どもが元気に、と、市長さんがおっしゃっているような、子どもに持続的に住んでもらうようなまちにしたいという大きな考えがあるわけですよ。

ところが、世の中は、ここで難しいのは、子どもは親の家に住まなくなっているわけじゃないですか。もちろん農家でも跡取りもいない、商店でも跡取りはいない。ところが、普通の住宅地でつくった方だって、兜台に行って、アンケート取ってみたら分かるけど、兜台で家を買った方たちが60を超えてますよね。その人たちのお子さんが大きくなっているわけだけど、何割の人が大人になったお子さんが、親御さんが建てた家に住んでくれるかといったら、半分はないでしょう。どこでもそうですけど、そうになったら岡橋さんがおっしゃっていたような、ゴーストタウンというのがちらちらと見えてきてるわけですよ。ここにいる公募委員の岡橋さんがはっきりとおっしゃっているわけですよ。その要求に応えないような都市マスをつくってもしようがないよね、というのは、御意見を承ってそう思ったんですけど、そこで、今木津川市のマスタープランをどうするかということが、結構難しくなってくるんですね。全員から御意見を伺いますので、いいですか。

○伊藤紀味枝委員　会長さんのおっしゃるのは、すごく分かるんです。ただね、木津駅周辺で駅に立たれたときに、ここ中心なんですね。ただ中心で、私はのどかでというたら、田園地帯でいえばいいかもしれないけれど、土地の利用というものを考えれば、少しもったいなと。私はこの近くに住んでいるものですので、駅前でこれだけ何もない駅もまずないと。何を考えているんやということをよく言われます。私自体は、今会長さんのおっしゃられた住民の意見をとって、市民の意見をとっていないということを言われたのには、正直違和感を感じます。住民の方も市民の一部であるので、このまちづくりというのは、前向きに検討していくべきだと、すごく思いながら聞かせていただいたんです。かといって、どうすればいいんだと言われたら、答えは私自体は、正直どうこうというのは、すごく難しい話ですのでね。これは専門家の方から人口フレームとか、地域性、交流軸の関係、地方の交流軸、そういうのも踏まえて考えていってほしい。本当に真ん中が空洞化、ドーナツ化現象を起こしていることは確かなんです。

○宗田会長　おっしゃっていることは、非常によく分かるんで、我々も専門家として実現したいのですが、そのためには、今後区画整理を検討しようとかいうやり方は駄目なんですよね。例えば、三山木というのがあるじゃないですか。京田辺の三山木。あれも区画整理ですよね。そこに同志社があるんですよね。あの区画整理という手法をとったんだけど、それじゃまちはできなかったですよね。パチンコ屋はできたけどみたいな。そういったときに、住民の意見を聞くのはいいんだけど、住民の皆さんに、欲しいというんだったら、ここのお店で買ってね、とかね。それぐらいの協力を仰がないと。30年住んでね、とかね。協力を仰いでいっしょにまちをつくっていくぐらいのことをしないと乗り切れないぐらい厳しいということなんですよね。そういうような、地権者が売りたいとか、区画整理をやればいいという話じゃない。本当に市民総動員でまちをなんとかつくっていくという体制をやっていききたいなと思うんですよね。

○酒井委員　始まってから1時間も経っても、議論は続いているわけですけども、会長がおっしゃった木津川市、市としての市政移行をして、10年経った後の、これから10年先を見通していこうという、今の段階をどう見るのか。そしてどのような木津川市を目指すのかという、その視点がないと駄目ですよという御指摘があったと思います。その意味で、今まで都計審に何回も参加させてもらっていますけれども、率直に申して、目が覚める思いで会長の発言を聞かせてもらっておりました。

ちょっと意見を言わせていただきますけれども、木津駅東地域の問題を考えていく上で、今から50年前といいますのは、山城町も9,000人の人口があった。加茂町も9,000人あまりの人口があった。同じように木津町も9,000人台の人口やったわけです。それが、木津地域を中心に今は5万人ほどの人口の地域になっているわけです。その背景は、もちろん50年かかって学研開発を進めてきた結果であるわけですけども、城山台を筆頭に人口急増、人口稠密といってもいいかもしれません。その一方で加茂地域が面積が36平方キロありますけれども、南加茂台地域を含んで

一旦は、1万8,000人になったと、町の人口が。ところが今は1万5,000人を割ろうとしているわけです。だから、私がずっとこの木津川市、13年か14年間見てきておりますのは、日本の国が大都市を中心に人口稠密。そして広大な過疎地域の山村を抱えている。それと全く同じ縮図が、わずか85平方キロメートルの木津川市で起こっている、また起ころうとしている。だから今、伊藤議員がおっしゃけれども、私は木津川市が目指すべきは、市街化が進んだまちではないと。いわゆる田園都市なんだと、やっぱり。農山村があり、そして商店街もあり、人口が集中している地域もあったりという。だから私自身は駅東地域は、農業地域が残れるなら、残ったほうがいいと。反対に西側は市街化区域になっている。そういうまちでも、駅でも、僕がかまへんと思うわけです。問題は、兜台、相楽台、木津川台、そして梅美台、州見台、城山台、こういうところがありますけれども、例えば城山台に住んでいる今、ざっと8,500人ぐらいの方たちが、木津川市内から移っている方、市外から移り住まれた方、どういう人口構成になっているのか。例えば私の知り合いでも加茂から何人か子どもさんが城山台へ家を建てて移っておられます。木津地域からもそうです。山城地域からも来られている。そういう方たちと木津川市の外から城山台に移ってこられている方がどれほどおられるのか。やっぱりそれは確かめないといかんのじゃないか。もしも木津駅東地域を市街化に編入していくのであれば、そこには、どんな人が住んでいくんだろうか。やっぱりその見通しは、会長さんがおっしゃったように立てていかないと、市街化、それさえもできないかもしれない。そういう御指摘かと思うので。

○宗田会長　ありがとうございます。段々、都市計画審議会らしくなってきた、皆さん本当に将来の住民のことを考えて、まちづくりを考えるようになったので、そういうことをマスタープランに書いておかんといかんわけで、我々の責任というか、市議会の先生はもっと責任が高いんだろうけど。そういうことを議論するといいですし、私も東地域をよくすることに関しては、何の異論もない。

○兎本委員　話、途中で割ってすみません。木津駅東に関してですけれども、排水の関係とか、いろいろな問題があつてのことだと思ふんです。会長がおっしゃっているようなところまで具体的なところまでのマスタープランにするのか。どこまで具体性を、というところで、多分考えの違いで、今この1時間ほどのやり取りが、先生と行政側とであるのかなという認識なんですけれども。

私も議会にいて、行政側と話をしていまして、理想がふわっとしたものだけが今、あると思ふんですね。例えば、先ほど木津川橋の北側のにぎわい拠点の話があつたと思ふんですけれども。あそこをにぎわい拠点としたい、ふわっと。何となくにぎわい拠点、ああなるほどね、というようにマスタープランに位置付けるのか。前回商工会長がおっしゃったように道の駅のようなものが欲しいんだという具体的なものを書くのか。どこまで具体性が、というところの認識で、ずれてやり取りが行われているのかなと思つてゐるんですね。

この木津駅東に関しましては、まだあまり問題として浮上してきてないのかもしれませんが、朝夕の送り迎いで、車が大分込むんですね。城山台に行く間の途中の坂まで車が連なるといふ状態が起こつてゐるので、例えば精華町さんの祝園駅のように、公共のバスとかのロータリーと一般車のお迎えのロータリーが必要じゃないかというような意見を聞くこともあるんですね。

例えば木津駅東だと城山台は、もちろんお迎えに来られます。州見台も来られます。梅美台の方は特に多く来られる。加茂も、私加茂ですけど、加茂も大和路線がとまったら、木津までしか帰つてこれないからお迎えに行きます。というようなことが起こつて、かなり渋滞を起こす。需要としてあるんじゃないかというところで、そういうところを議論していただいて、木津駅東、ちょっとロータリー拡張せなあかんのじゃないかという方向に位置付ければ、マスタープランとして入れたほうがいいんじゃないか、となると思ふんですけれども、今はそういうことにはしないで、ふわっとした状況でいきたいのか、どこまで具体的なところを議論するのかな、する必要があるん

じゃないのかなという意見があると思うんですけども。

○宗田会長　駅前整備とかはやりたいわけですよ。市としたらね。それこそ要望がきてるし。だからマスタープランでこのレベルでとめてしまうと、結局先送りになっちゃうんですよ。今兎本委員からおっしゃっていただいたりとか、実際にあれだけ人口が張り付いてて、車の送り迎えが増えてきたら、まずロータリー整備。そうすれば、送りにきたお母さんなり、おじいちゃんなりが、ちょっと車をとめて買い物をして帰ってくれるかもしれない。そうすればお店も立地しやすくなる。ただそういうイメージを持って、まちをつくっていくということを書かんといかんのだけれど、それは区画整理という言葉でやっていいのか、もうちょっと何か具体的な、今兎本委員がおっしゃったような言い方で書くかみたいな話があって、やがてそれを人口減少が進むとはいうものの、当面20年30年の間にいいまちにしていって、ほかのまちが衰退しても、ここはゴーストタウンにならないような、魅力的なまちとして、さっき酒井委員がおっしゃったような田園の入り口の駅としては、一番美しいような形にしておこうと、そういうことを書きたいわけですよ。夢を、こういう方向を目指そうというものを何か書かないと、都市マスはいけないと思うんですよ。そういうまさに貴重な御意見をいろいろと承っています。

○兎本委員　駅東以外でも我々、議員としても活動してて、この間だと夏場、7月末に163号線、山城とかも土砂崩れで通行止めになったりしたので、あそこに抜本的なトンネルを掘っていただくような道路の整備をしてほしいよね、というような意見もあったので、国のほうに要望に行ったりしているんですけども、そういったものが需要であれば、ここで都市計画の道路関係で書くのか、それは後からでも書けるから、後からでもいいのかとか。163号線の話は、絶対に重要な道路だと思うので、そこは抜本的な改革が必要じゃないかとかいうような意見を受けても、そこまでも入れるような話のレベルでここを議論をするのか、ふんわりとして理想だけ書いていくような、その具体性をもう少ししっかりとやらないといけないということだと

思うので、片田委員がおっしゃっていたイオンの誘致のときの話とかのこどだと思うんです。イオンが来てほしい、と書くのは難しいと思うんですけど、そういうところをしっかりと具体的にやれば話が進むようになると思うので、やはり具体的なものができていかないと、都市計画審議会のほうではそうしたいけれども、行政側はもう少しやわらかくしておきたいという雰囲気が見えるので、どこまでいけるのかというところだと思うので、もう少し具体的なものができたらいいなと思います。

○竹谷次長　今の御意見につきましてお答えさせていただきます。都市計画マスタープランというのは、中長期的に都市づくりをどのように進めていくのかという羅針盤の役割があるものだというふうに認識をしております。また、機能的な土地活用の確保とか、土地の合理的な活用ということも書かれておりますので、当然、そういったことを書き込んでいくべきだと思うんですけども、今の時点では、やはりそこまでは書き込めないという事情がありまして、非常に悩ましいところだと考えております。

それと木津川市の道路ネットワークが、特に東西が弱いというお話しだと思うんですけども、その辺りは事務局も気にしておりまして、資料の2の58ページの上から12行目ですね。さらにという部分から3行、たった3行なんですけれども、ここに書いております。木津川左岸をどうするのか、右岸をどうするのか、全くそういうことも決まっておられませんので、こういった書きぶりしかできなかったという事情でございます。以上でございます。

○宗田会長　こういう書きぶりというのは、どう理解したらいいんですかね。

○竹谷次長　例えば、枚方山城線は、今回延伸ということを都市マスには書かせていただいているんですけども、それをさらに延伸していくのか、もしくは163号線を拡幅していくのか、もしくは木津川左岸に新たな道路整備を行うのかということも全く不透明な状態ですので、こういった非常にアバウトな書きぶりになっておるということでございます。

○宗田会長　アバウトということをちょっと整理すると、今の58ページの話は、

市庁舎の前面道路である市道 335 号線の話じゃないですか。これは、当然滋井部長さんがおられますが、建設部の中の話ですよ。これが府道とか、国道、特に国道になって、さっきの 163 になると、社会資本整備審議会の委員もやっているんで、よく分かるんだけど。163 は確かに難しいんですよ。

○竹谷次長　会長すみません。58 ページの上から 12 行目の部分を今説明させてもらいました。さらに、市域を東西に連絡する災害時等の、という部分。

○宗田会長　国道の話をされたということをおっしゃっているわけですか。

○島川担当課長　国道と並行して、恐らく府道になると思うんですけども。今回、枚方山城線を城陽井手木津川バイパスまで延伸する整備の促進をお願いするといった位置付けにしております。それをさらに、東に向けて延ばしていきたいというような考えの趣旨をここで記載させていただいたところです。

○宗田会長　分かりました。そういう府道とか国道に関しても、お願いしたいことはお願いします。木津川市道に関しては、もっと責任を持った書き方をしたいと、こういうことをおっしゃったんですね。分かりました。

○公文代委員　今、宗田会長の都市計画の関係で、私はすっきりしたんです。なぜかと言いましたら、木津駅東の話が出てますけれども、これ、何でアンダーで抜けなかったんやろうと。私があそこの地域をやっているときには、38メートルでアンダーで抜くとなっていました。それで100年の大計やと言って、戸田町長が来られた。私もそれに賛同しました。都市計画決定を打たれたんです。ところが、2年経って前にも言いましたけれども、変更になったんです。アンダーで抜かないとなった。これは、住民というより地域の一部の人たちが、反対したからやということが分かって、やっぱり住民という問題の市民というんですか、この周辺の住民と市民とを、行政として勘違いされていたん違うかなと。私は単純に思っています。都市計画は、宗田会長がおっしゃるようにこうあるべきやというテーマとして、こういうまちにするんや、こういう市にするんや、これを語れないとぼやとした形でどんどんつくることばっ

かり。先ほど挨拶にもありましたように、旧の町ですね。新旧格差のないまちづくりという言葉でされておったわけです、学研のとき。格差がないんじゃないしに、格差がどんどん広がるまちづくりになってますね。やっぱり旧町ですね。こういうものを再度、都市計画の中で見直すということも大事と違うかなと。

それともう一つ、機会がないと思うので、枚方山城線、多数の方が賛成されているというようなことをおっしゃったんです。私は真正面から反対です。なぜかと言いますと、24号線から城陽井手木津川線、これについて井手町が、渋川というところ御存じですね、そこに着手をするぐらいの勢いで、ほかの駅の整備の北のほうの買収をやめて、そっちにかかるというような勢いを井手町はされている。こういうように聞いていました。そしたら、そんなに距離のないところです。なぜそんなものが必要なのか。そして、そこには住居がついております。張り付いています。一番参考になるのは、宇治から、警察署ありました、城陽のね。あそこまでのああいうものをつくらないと府道、市道、奈良線、越えられません。そういうことから見て、ここにおぼろげに市街地にするような感じで書いてますけれども、そんな道路をつくるのに、市街地は要りません。市街地にするならどういう拠点としてつくるべきか。こういうテーマの中に市街地にしたいと。私はほんまの2、30メートル横に住んでますので、実感として分かることです。そんな予算、コロナ禍で現実に予算あるんですか。今後どんどん何百億という予算が要るはずです。また井手町が先行してやるはずです。そうしたときに木津川市が押しのけてとってこられるのか。その辺が疑問です。私は多数の方が、賛成されておると、どんな人がこの都市計画で事前に聞き取りされて、多数でどんな人やろうなと思うのが、今の当面の考え方です。

○宗田会長 ありがとうございます。ここにおられる何人かの委員の方も推進派もおられるし、公文代委員がここで断固反対と、おっしゃっているのは残っていますので、そういう場合は、書くときに、今後地元の合意形成に努めるべきであるとかっていう書き方をすればいいんで、正直に今おっしゃっているように、できる、できな

いとか含めて書けばいいと思うんです。決まらないところは、決まらないと書けばいいんです。全て、全部決まった状態で書かなきゃいかんというものではないと思うんですよ。それが、こういう計画ですから。だから審議会があるわけですから。この審議会で今までいろいろな歴史のなかで、全会一致で普通おしまいにするところが、どうしても多数決じゃなきゃとおらないとかいうこともあり、そういう仕組みをつくりましたので、これはぜひ、その形で踏襲していきたいと思うし、市民の皆さんにも正直にそれをお知らせするのがいいんだろうと思うんです。

○片田委員　いろいろ意見がでました。私自身が考えますのは、地盤的な問題もあったり、いろいろ過去に審議会でお話をされたことがあるんですけども、今回は、木津川市の玄関口なんですね、木津駅というのは。今のままでは駄目だろうという考えが私にはあります。ですから、どんなふうに利用するかですね。それは二の次としても、整備はとにかくしなければならないのであるということで、将来に向けてどのようにするかという議論をしていただけるといいかなと思うんですけども。

○宗田会長　皆さん、46ページをお開きください。将来都市構造、この46ページが考え方の模式図になっていて、47ページが都市構造図になっているんですよ。この真ん中の大きな丸が木津駅で、左側が高の原、というイメージなんですけど、今おっしゃった木津川市の中心は木津駅である、実はこれ、1次マスタープランのときはここは、まだ緑だったんですよ。真ん中の赤丸が。もしここを本当に、せっかく市役所もあるわけですから、そういうようなまちにしていくなったら、そういう作戦を立てないといけない。クラスター構造でつくられしまった今の木津川市を防災とか、もちろん消防、警察も含めた上で、都市構造をそういう拠点を持つようにするのか、高の原はどうなるんだとか、城山台の商業とか、その辺の構想を決めて、どこにどのくらいの商業床、床面積を用意する、どこにどのくらいの人口がいるからということを決めるのが、ここの都市計画マスタープラン、一番肝心なところなんで、都市構造なんですけれども、これを曖昧に書いてしまうとできそうに思う、市民をだましちゃ

うんですよ。こんな約束をしといたけれどもっていう話になるんだけど、後で市役所のほうが苦しむわけですよ。ここにこんなことが書いてあるけど、いつまでたってもできないじゃないか、みたいに、今のアンダーが何で通らないんだと、いろいろありますよ。いろんなまちでやっているＪＲさんの下を抜くのは、えらい大変なんですよ。どこもＪＲのそれも新快速が走っているようなところの下を抜くというのは、怖くて怖くて手が出なくて、ずっともちろんお願いもしたんだろうけど、京都府の支援もないだろうし、国の御支援もないところで、そんなＪＲの下をくぐるなんていう大事業は、なかなかできなかったりするとか、そういうことも含めて、いろいろ考えた上で、将来都市像をどうするかですね。分かるんだけど、どうしようねということの。

当然、木津駅に集めちゃったら、他地域の買い物をある程度我慢してもらうということになりますね。

○片田委員 その中心のという、木津川市の玄関という表現をしているんですけども、今高の原やほかの駅がたくさんあるんですけども、やはり、木津川市といったら木津駅という感じで皆さんイメージをお持ちになっているし、そこを拠点にして役所もあるしという感じで動いている部分があると思うんですね。まちの中心はどこですか。じゃあ、事務方にお聞きしたいのですが。

○竹谷次長 木津川市の中心は、中心核を設けております、市役所のあるこのエリア、ここから城山台のセンターゾーンになるかと思えます。この４６ページを見ていただいていると思うんですけども、４５ページの上から２番目のカッコ、そこに地域特性に応じた拠点の適正化による、クラスター型の都市づくりと書いております。

集約型の都市構造云々ということを書いておりますけれども、要するに集約型の都市構造というのは、都市拠点を特定の場所、集約拠点到集約をしていく都市、市街地を整備していこうということでございます。中心都市拠点、都市拠点、地域拠点、これらの集約拠点到集約していこうと。それらを公共交通の整備によって、集約拠点の

アクセスを確保していこうと。それ以外に集約拠点以外の地域の市街化を抑制していこうと。こういったことが基本になって、このマスタープランを考えております。

○片田委員　中心拠点ということで木津川市の駅の部分を考えているわけですね。それでよろしいでしょうか。

○竹谷次長　都市マスもそうですし、木津川市の総合計画もそういうことでまちづくりを考えております。

○宗田会長　建前の段階でもう矛盾してるんですよ。市民の前では、木津駅が中心だと都市計画課は言いたいんですが、もう一方でクラスター構造のまちづくりというのが、学研ですから。だから拠点が複数あるといわざるを得ないんです。

ちょっと具体的に考えるとすると、今、木津駅東側にロータリーをつくって、あそこに仮に大きな商業施設が来たとしますよね。プレスコさんが影響を受けますよね。城山台にある商業施設も当然、お客さんをとられますよね。成功しようものなら、今度、高の原のイオンが撤退するかもしれない。現に高の原のイオンだって、URの事務所の跡地もなかなか商業施設として整備できないでいるというのは、イオンさん御自身だって苦しいところがあったりしますよね。そういうふうに考えてくると、パイはもう増えないわけだから、そこをどう配置するかじゃないですか。そこまで考えてこないと、拠点です、と言ったって、大日本帝国は偉大ですなんて言ったって、戦争は負けますから。

○片田委員　今、私が申し上げたいのは、木津駅として整備されていない。西側は整備されているけれども、東側は農地しか残っていないですね。それは、一個の戸建てのお家を見ると、玄関先が汚いお家なんですね。それを整備しなければならないでしょ、という意味合いのことを言っているんです。

○宗田会長　その気持ちは分かりますけれども、それを具体的にどうするのかということは。

○片田委員　具体的にどうするかといったら、このアンケートに住民の人たちが、

まちづくりで商店があるまちをつくってほしいというような意見がアンケートでは、たくさんあるんですよという報告を受けています。ここにも書いてあるんですね。それにまちづくりの中で答えていく必要もあるかなという感じはするんですね。今、住みよさランキングで自治体790の中で、石川県の野々市市というところが全国で1位になっているんですね。そこの人口は、5万3,000人で面積は13.5平方キロメートル、とても小さなまちなんですね。そこで住みやすさランキングも人気も一番あるというのはどうしてかと言ったら、利便性なんですね。人口当たりの大規模の商業店舗が全国で2位、人口当たりの小売り販売額が6位となっているんですね。ということは、宗田先生がいつもコンパクトシティの話をよくされて、私も将来そうなるだろうと思うんですね。ただ悲観的なまちづくりではなくて、発展的なまちづくりを考えるとすることもできるんじゃないかなと思うんです。

○宗田会長　野々市の実情をいうと、マイカルが来たんですよ。それで金沢のまちの中心市街地が衰退しちゃったんです。それで大変なことになって、確かに一人勝ちで、自分のところにマイカルを誘致すれば、そこの住民は便利ですよ。ところが金沢のあれだけのまちが衰退し始めたので、慌てて金沢市が商業環境形成指針というのをつくって、北と南、野々市とは反対側のほうにもマイカルができて、香林坊とか、それを上手に調整しながら、金沢にコンパクトに集めるように作り変えている。自分のところだけよければ、という話はできるんですよ。自分のところだけよければいいということでは、ほかに迷惑をかけるという話をしているわけで。それが今、この場合だと木津駅東口だけよくて、とか、そのバランスをとって、どう調整して、みんながうまくそれぞれができるようにするか、ということを考えなきゃいけないのが都市マスなのに。玄関口をきれいにしたいんですよ、きれいにしたいと思うのは山々なんだけれども、だから田んぼのまま残せということをしてるわけじゃないですよ。それを現実的につくっていくために、市民がそれを望む気持ちも分かるんだけど、それにどう答えるかですよ。

例えば、人口が減っている、人口を増やせというのは簡単だけど、国は人口を増やしたいと思っているといったって、増やし方が分からないじゃないですか。

○片田委員　でもなんか、聞いていますとね。すごく悲観的な、なにか希望が持てないようなまちづくりって、もう少し前向きにしたほうがいいんじゃないかなという感じがするんですね。人口減少、確かにありますけれども、それを挽回するようなまちをみんなで作っていきましょうよと。このまちは、こんなに魅力があるんだよというようなね、そういうまちづくりをするには、やはり駅前の整備が不可欠だと思うんですね。

○宗田会長　分かりますよ。駅前は開発したほうがいいに決まってるんだけど、誰が金を出すんですか、という話ですね。片田さんが率先してそのビルを建てていただけるんだっただけでできるんだろうけれども。

○片田委員　私自身は、ビルを建てる話はしてないんですね。今さっきおっしゃったように、送り迎えのロータリーですね、すてきなロータリーをつくって、皆さんが住みやすいまちにするという考え方もあるわけです。別に商店街をつくるという考えではないです。ただ、本当に皆さんが納得するような駅前をつくるのは、早々に必要ではないかということを申し上げたんです。発言がとても下手で、皆さんを混乱させるようなことを言ったかもしれませんが、駅を整備する必要があるでしょ。それにはもう少しスピード感をもって、都市マスの中にも入れるべきではないですかということをお願いしたいだけです。

○宗田会長　ロータリー、いずれにしろ、きれいにしなきゃいかんのはおっしゃるとおりです。

○森本委員　森本です。よろしくお願いします。駅前の話なんですけどね。この8年間で8,000人の方が来ていただいたという、非常に短期間にたくさん来ていただいたという事実の中で、人数が多いので、その人たちの利便性といいますか、恥ずかしくない駅前にするということは、必要じゃないかなと思います。

先生が言われるように、非常に具体的な形を将来を見据えてやらないといけないというのは分かるんですけども、今回のマスタープラン、10年のマスタープランですよ。やはり時代の流れが早いので、その時々で変えていくしかないかなと思っていて、今、30年後のことを見据えて、10年後はこうあるべきだというよりも、もうちょっと木津川市の場合、特に城山台地区というのは短期間で人口が増えたので、その人たちがよくなるまちになるというような絵を描いて、10年後はこのレベルまでいきますよということを示すことを我々の都市計画審議会のビジョンとすべきじゃないかなと思っていました。そのときに商業性というか経済性をどう考えるかなんですけども、それはJR木津駅の駅前を見ていただいたら分かるように、100億かけて整備しましたと。だけど今は病院とフレスコに落ち着いていますと。その反対側も、もしかしたらそういう形に将来なるかもしれませんが、それでもそういう地域として指定すれば用途地域の規制も自由に、店を建てたりできるようになりますので、今だったらある意味、規制緩和ができてない状態になりますので、そうでなくって、規制緩和をして、後は経済性というか、そのやる方の資本力に任せるというような形なんだけど、やっぱり我々としたら、そういう地域を指定して、夢を持つような形にならないかなというのが、先生の最初の意見も踏まえてね、そう思いますので。ちょっとまとまりがないですけども、以上で。

○宗田会長　私の説明が悪かったのですが、市街化区域にし、商業系の地域に用途地域を変更することに異論があるわけではない。区画整理することに異論があるわけじゃないんです。ところが、そうやってあげても出店したお店が潰れていくんですよ。今おっしゃったように100億かけて、これだけ整備してあげてもまちはできないんですよ。それをできるようにしてあげるところまで面倒みるのが、都市マスじゃないですかという話なんですよ。

本当にまちをつくるための手段が都市マスなんで、さっきの野々市の話をしたんだけど、金沢の町が駅前のフォーラスとかに出店してもらって、香林坊とかの市街地再

開発事業が成功したのは、もうこれ以上野々市とか周辺にお店を建てないということをしたんで、規制をして、そこにぐっと商業を都心にもってきたから、フォーラスがあそこに出店してくれたんですよ。そういうことをしてあげないと、あんたら勝手にどんどんまちを広げていって、次から次へと新しいお店がでてきたら、古いところは潰されていくわけですよ。その結果、商店街が衰退していったわけで、どこかでちゃんと市場原理に任せるだけではなくて、一定の誘導なり支援なりをしてあげた上で、安定して持続可能な経済が発展するような仕組みを考えてあげないと、全部資本の原理だけに任せることをやっていったら、荒れて砂漠みたいなところができるでしょう。その辺の整理をするのが、都市計画の非常に重要な役割だということを申し上げたいんですね。規制緩和をする以上、出す人は助けてあげよう。8,000人の市民が、さっき言ったように、お買い物してね、しようね、というふうにして、お店を盛り上げることもしないと駄目だと思うんですよ。人口が増えているときは、そんなことを気にしなくても商売人が客を集めて、上手にやってくれたんだけど、今はそうでもなくなっているということが言いたかったんです。

○岡橋委員　ありがとうございます。宗田会長がおっしゃっていることが、少し事務方なんかに伝わってきれていないのかなというような感想を持っております。

まず具体的な実施計画に近いものを書けと、多分おっしゃっているわけではなくて、木津川市としての長期的戦略みたいなことをまず書いておくと。どういう考え方、どういう方向性で、10年先、20年先を見据えて進めていくか。それによって、持続的成功を担保できる考え方みたいなベースになるものがなくて、具体的に何か道をつくとか、拠点をつくとか、駅の前に何かこしらえるとかいっても、それを成功させるための作戦・戦略がないと駄目やと。それをまず見せておいて、その方向性に従って、駅の前をどのように持ってくるんや、道をどう持ってくるんや、あるいはにぎわい拠点をどうするんやという考え方がないと駄目だというのが、あまり伝わっていないというのが一つです。

もう一つが、今後このマスタープランというのが、パブコメに出していったら、そこからいろいろいただく意見を採用していかないといけないということで、我々提案側としては、もう少し焦点をはっきりさせておく必要があるんじゃないかと思います。そのためには、本体にどうこうじゃなくて、補足資料でもアペンディクスでもいいと思うのですが、もう少し簡単なまとめを別途したらいいと思います。

その視点としては、大体五つぐらいあると思うのですが、一つは先ほどもありましたコンパクトシティ、あるいはコンパクトシティプラスネットワークみたいな考え方をどのようにするのか。あるいは、そんなんしないのか。ということを考えないといけない。それは、先ほど酒井委員からもありましたけれども、この立地の特性からいうと、まさに田園都市ですね。田園都市というものは、例えばコンパクトという、例えばコアになる都市部分とその周辺部分。どんなのか知りませんが、例えばドイツでいうクラインガルテンのようなものなのか知りませんが、そういうものをどう設置していくんだという考え方、それによってどれだけの流入を見込めるかというようなことを考え方として持たないかということやと思います。

二つ目としては、スマートシティという考え方です。それもここには、あまり書かれていないような気がします。三つ目は、レジリエンスですね。これは都市防災というところである程度切り出されていますけれども、レジリエンスという形で、ここをどう考えていくかということも、もう少しちゃんと書いておかないと、いろんな質問とかがきたときに答えられない。四つ目としては、サステナビリティの問題ですね。人口減少の時代が10年後には、確実にくる。それから先生がおっしゃったように、若年層の流出というのは、それをとめる手だてというのがない。その部分をちゃんと見据えておかないと、幾らものをつくっても人がおらへんので、閑古鳥が鳴いてしまうので、それをどうするかという視点が一つ。最後五つ目、このまちというのは、文化学術研究都市になっておるわけですが、残念ながら木津川市域においては、重要な研究所というのは、かなり少ない。どちらかというと精華町のほうに多くあり

ます。そういうふうなこと、あるいはそういう研究施設で働いている人が、ここに住んでいるということもあまりない。アンケートを取りましたけれども、あまりないということも含めて、文化学術研究都市としてのもっていき方ということ、あるいは、そこの中での木津川市の役割というものをもうちょっとしっかりしていかないと、どちらかというと精華町に負けている状態になっているということです。その辺りをちゃんと考えた上で、マスタープランを作っていけないと駄目なんです。そういう意味では、先生がおっしゃっているように、具体的な実施計画に近いものを書けと言われても、今の段階では書けないのは自明であります。それをおっしゃっているのではなくて、そういう基本的な考え方、あるいは持続的な成功を担保できる考え方をベースに持った上で、いろんなものを考えていきたいとおっしゃっているんだと思いますので、私はその部分には賛同しております。以上です。

○宗田会長 ありがとうございます。5点、非常に分かりやすい、コンパクトシティプラスネットワークの田園都市版、スマートシティ、レジリエンス、サステナビリティ、文化学術研究都市としての木津川市の役割を明確に示すという、そのまま採用したいくらいですね。ありがとうございます。

もう一点は、都市マスを示す以前に、パンフレットのような普及版のようなものを作るという考え方があるかもしれないということです。

○福井委員 商工会の立場から、今駅東というところに焦点を当てているんですけども、もちろん、その地域の農業者の地権者もいらっしゃるし、ということですけども、我々今、商工会の会員の現状といいますのは、近隣に大型スーパーができて、泡をふいているというような状態でやっているんですけど。それを一つ都市計画の中で、漠然と言いますと夢を持たせてほしいなと。今の駅東に商店ができると。また先ほど兎本委員もおっしゃいましたけれども、163と24号線のバイパスに何かにぎわいの場所ができるということの夢を持たせてもらわんと、後10年、我々商工業者がもてるかどうか。

しかし、それ以上に今の人口の減少やらなんやらというところで、大型店舗の売り上げが少なくなったというときに、容赦もなく、木津川市に関係もなく、自分のところの都合で撤退ということはあり得ますし、我々商工会というのは、過去何十年という歴史があって、これからも地元商工業としてやっていきますから、もう少し、我々の努力ももちろん必要ですけども、考えていただきたいなという思いが、夢ということで、夢なんで、都市計画の中に入れられるかということがあるかもしれませんが、ちょっと入れていただきたいなと。駅の東というのは、私は加茂町の人間ですけども、加茂町からすると、ええとこ空いてるやんかと。山城病院も、市庁舎も、何であそこにかへんかってんやろなというのを疑問に思いながら、今のここになったんですけども、それは今さら追求等はしませんけれども。

J Rの駅前というのは、ものすごく開発が下手であって、近鉄の駅前なら優勢にやっているけれども、それは何があるのか、J Rが絡むからそうなるのか。ちょっと市主導で何かいい方法を考えていただきたいなと思います。以上です。

○宗田会長 ありがとうございます。近鉄とJ Rの違いもありますけれど、U Rとか学研のまちのつくり方とそうじゃないところの違いというのが、きっとあるのかもしれないですね。学研とかは、最初から計画的につくってましたから。

それから17ページに商業という欄がありまして、この辺をもう一度丁寧に書き直すつもりでおりますが、この部分で今商工会のほうから御指摘があったような、この木津川市合併後の商業がどうなっているかということを見る必要があるんです。これを見ると、平成21年で4件、令和2年で8件へと増加していますという、長期的には増加傾向にあるなんて、無責任なことが書いてあるんだけど、今御指摘いただいたように、とてもそんな安閑とした状況ではないわけですよ。ここで大型店のことが書いてあるけど、それ以外の商工会の会員のような零細の事業者のことは全く触れられてないので、木津川市としてそこに配慮してないわけでは決してないので。例えば木津の商店街を今後どうするかとか、加茂、山城それぞれに昔の都心があったわけで、

そこをどうしていくかということもありますし、そういうことも配慮した上で、コンパクトシティプラスワークというか、拠点を一個一個大切にしながら、城山台小学校のときに話題になったんですが、旧木津小学校はどうするんだみたいな、いろいろ問題もありますから。そういうことを含めて商業、それからその次のページ、工業が入ってますから、人手不足の問題が深刻になってきましたので、そういうことも踏まえた上で検討していきたいと思います。ありがとうございます。

○公文代委員　それと、我々太陽光反対運動をやって、条例までつくっていただいてありがたいことなんですけれども。ハザードマップをしっかりと書かれておって、その中に、今までは避難場所やったわけなんですけれども、全部が公共施設なんですね。別の場所がないんです。全部浸かってしまって、山城の場合ね。何でそういうことを反対するかといったら、避難場所もない、防災拠点もないまちというのは、これ何とかせないかんやろと。そんなとこに、通過道路にしっかりと予算を持っていくと。防災拠点をですね、また今公共施設、全部そういう形で防災対応せないかん。こんな予算をつぎ込まないといかんのに、どうなるんやと。それと大事なことから、一つだけお願いします。道路をつくるのと、駅東の棚倉の市街化をされるの、どっちが先ですか。それと道路計画が今、どうなるかも分かりませんけれども、これがいつ頃までに完成しようとしているのか。道路が先であれば、市街化というのはずっと後になりますね。そして今も、市が持っている1,500坪、5億円以上かかっていると思いますけれども。この土地をどのように活用するのか、そういうことが一つも書いておりませんので、この辺だけお願いします。

○竹谷次長　今、公文代委員さんがおっしゃいました、棚倉駅の枚方山城線の沿線沿い、その市街化編入の話なんですけれども、この話は当然、城陽井手木津川線のバイパスを計画するとき、こういった活用ができるなということで考えた案でもありますけれども、それ以前に旧山城町の都市計画マスタープラン、この中に、この道路の延伸とか棚倉駅東側の都市的土地利用ゾーンとして設定するという話は書かれておりま

したので、まずこの部分を踏襲したということを御理解いただきたいと思います。

○公文代委員　今、会長の話にもあったように、合併になって、そして旧町の都市マスを踏襲したと。ありがたい部分もあるけれども、何を考えてどうしようとしているのか。私はマスタープランの中身が浮かんでこない部分があります。住宅が何ほか分かりますやろ。なぜかと言いましたら、全部旧町は防災から見て、全部浸かります。そういう面で水が浸からない、水害のならないところにされるんやなど。そのように思いますけれども、どのような考え方で、今道路が先なのか、市街化が先なのか。道路をつくるまでといたら、何十年先の話です。仮につくったとして。そして市街化は何十年先を見据えて、市街化にすると。こんなまちが変わってしまうと思います。

○宗田会長　いい御指摘なんですけど、ちょっと見ていただくと、103ページの既成市街地山城地域という部分があって、ここに都市計画課のほうから御説明いただいた、旧山城町時代の都市計画がそのままということはもちろんないんですが、継承されている部分があるわけですね。これが後半の地域別計画のところに行くんですが、合併になって2回目の都市マスなので、公文代委員がおっしゃるように、旧町時代から引き継ぐもののなかで、実効可能なものと、そうでないものを整理するというのも今回やらなきゃいけない仕事だったんですよ、本来。一回目のときは、合併したわけで、それぞれもそこに山城とか、それぞれの立場の方がおられて、私も当時、委員として都市マスの議論をしましたけれど。それはそれぞれの立場を継承しつつ、尊重しつつ、つくっていくというやり方だったんだけど、もう10年経って、このマスタープランをつくる時期になったので、見直そうという話が一点。それは、地域別計画に関して、皆さんの御意見をちゃんといただきたいということがある。

もう一点、防災に関して、山城南土木事務所長のほうから御指摘いただいているみたいなんですけど、今度、城陽井手木津川線ができることによって、防災機能が高まりますと。それに沿った形で木津川市の防災計画をどうするかということのをちゃんと考えましょうねという、不動川公園の話もちっと触れておられますが、これもとても

重要な御指摘で、防災に関する部分をちゃんと書きましょうということも大きな課題としてある。もう一つ、立地適正化計画をもし検討するとすると、立適では、今おっしゃった洪水危険区域をどう除外するかなんですよ。土砂災害危険区域をどう外すかなんですよ。これも木津川大水害の地元ですから、山城町とか加茂町。そうすると今度立適をやるときに、洪水危険地域に居住誘導区域をはれないわけかなんですよ。そこに道路をつくるとか、市街化するのかという議論を、手のひら返した瞬間にそれが話題になって、一方で大津市の立地適正化計画をやっているんですが、国のほうから今年出た指針では、集団移転させるから、もう外せというんですよ。補助金出すから集団移転してくれと、その洪水地域からは。そうしないと御覧のとおり、数年の間にとんでもないことが起こっているわけですよ、洪水で。だから早く逃がしといてやれという話をしているんだけど、古い市街地だし逃げれないとか、いろんな問題も焦点もある。手のひら返した瞬間にそれが出てきてそのうちに、真面目な話をしてるけど、今、居住誘導区域じゃないところに家を建てたい人は、今は市長に届けたらいいみたいな話になっているんだけど、ローンを組めなくなるんだと。財務省のほうにいつて、そこはここでは住宅ローン組めませんとかやりだしたら、今銀行がどんどんローンを貸し付けて、低金利で貸し付けるから、家がばたばた売られているわけで、城山台みたいなことが起こるんだけど。ピタッととめるんだろうと思うんですよ。そのための居住誘導区域、立地適正化計画なので。そうなった瞬間に不動産バブル、持ち家バブルがバババとはじけていくわけですよ。それは数年以内に起こるだろうと言われてい るんですよ、専門家の間では。そうなったときに、こういうまちではどういうことが起こるんだろうということをまさにそういう意味で、防災計画がどうか、その辺のことを踏まえた上で、次の10年に起こるであろう変化をどう予測しつつ、じゃあこの103ページ以下に書いてあることは、どう成立するんだというような議論を進めていかんといかんののですが、なかなかそこまでの見識を持った専門的な議論になってないので、ちょっとまずいかなと思います。ありがとうございます。

○西村正子委員 冒頭から、この資料の素案を見ていて、何か歴史のところで違和感があるんです。何でこういう書き方をするんだろうというのが、すごく出てきて、ここでごちゃごちゃ言いませんけれど。とにかく木津川市になって、いろんな質問をしたんですが、当初、質問したときに順番が来ないからということで、計画にはなっていますができていませんということが、いろいろあったと思うんです。それが放っておかれて、また次の新しい道路をつくるだの、市街化区域をつくるだの、いろんなことが出ていたので、また加茂は放っておかれたかなと、加茂に住んでおりますので、そういうふうに思います。加茂のほうは、やっぱり空き家対策がとても大事になってきて、新しい住民をどう入れていくかということが一番大事だと思います。老人一人で住んでいて、空き家がぼこぼこぼこできてきてるわけです。その中に、そこが魅力的で防災も救急車も入って、消防車が入って、若い人が入ってきてくれても魅力的なまちであるかという、そこは過疎化のまちですから、本当にみんなが努力して、70代以上の人が一生懸命やっているんですが、10年経ったときに、草刈り、恭仁宮でもそうです。草刈りというのを分担してやっていますが、もう草刈りしんどいぞ、と言ってる人が多いわけです。そんな中で、人口が減ってくるんだから、ここは素敵なおところだから住んで欲しいと言ったときに、ここが魅力的なおところであるのかと。木津の玄関とか、駅前が大事というのもあるんですけど、私は恭仁宮跡というのは、一つの交流の場所になっていて、いろんな人が来る。それは当尾も同じです。交流拠点となって、魅力的に感じてくれる人が一人でも二人でも引っ越してきていただけるとい、それがとても大事かなというふうに思うので、そこを放ったらかしにしないでほしい。今木津川市は金がないと言目には言われます。だから、当尾の施設、加茂の施設にしても、そんなものは、経費がかかる、人件費がかかる、いろんな維持管理がかかるから閉じてしまえと簡単に言って、みんな止められてしまって、魅力減少なんです。そこにこういう夢の物語もいいんですけど、夢の計画もいいんですけど、お金を投じてバランスよく、このまちはこういう特徴があるというのが、

前から決まっていることなんですから、そこをよくするにはどうしたらいいのかというところをちょっと考えていかないと、私は加茂の駅から降りて、海住山寺に行って、山を越えて、三上山を越えて、棚倉に降りるコースを歩いている人をととてもたくさん見てます。でもその三上山も旧山城町のときに国の予算をとって整備したところなんですけど、その後、自己経営にしましょうみたいなことになったときに、山道がもう本当に危ないくらいに、階段の木をとめてあった金具だけが残っていて、ずるずるなんです。私たちの年代になると階段がないですから、危ないからいけないという人も出てくるくらいに危ないことになっている山なんです。そういうところを見ていて、倒れている木を切ったり、多少は直しますけれど、とても大きな予算が要ります。そういうところをもう一回見直しをして、この地域には、こんな魅力があるよというのは、新しいものも大事なんですけど、当尾はこんな素敵なおところがあるよとか、そういうことをやっぱり力説して行って、まちの魅力というのをバランスよく発信して、いろんな方が交流もしくは移住、いろんなことに来ていただけたらいいのかなというふうに地域としては思います。

○宗田会長　ありがとうございます。歴史のところの記述がちょっと弱いというか、歴史を御存知ない方が文章を書いているようなイメージを私も受けたので、そこは丁寧にちゃんと勉強していただくほうがいいなと思います。これは大いに品格を疑われるような、誤解があったりしますよね。これは、ちょっと丁寧に点検をしたほうがいいということと、それから周遊道のこともおっしゃってますので、これは大変重要だということ。合併したことによって文化財行政が合併してしまって、うまく機能していないんだなということを私も痛感してますので、ちょっとこれは、大いに反省すべき点かなと思います。

○牧井委員　各委員から貴重な御意見をいただいております。大変参考になるんですけども、私からは一点。こういう木津川市の都市計画を考えるときに、必ず出てくる地図が木津川市の地図ですね。そこしか書かれてないです。ところが、すぐ横の

和束でいうならば、あんなに小さなまちだけれども、世界に対して打って出るようなお茶で、和束茶というのは、世界に通じるようになっているので。海外からお茶の生産の勉強をしにくるというようなことも、直接私は知りませんが、テレビ等で報道されたりしています。

南は奈良です。大阪大都市圏からもほどよい距離で、そのための住民の移動も当然ある。京都市から見たら、30分から40分ぐらいで通じるところであります。けいはんな学研都市の中の位置付けではありますけれども、木津川市だけ見ても、申し上げたように学研都市の一つでもあるし、また以前に河井市長がおっしゃった、京都府の中であって、京都市に次ぐ文化財があると、胸を張っておっしゃっておられたというのも記憶にあります。

そんなことを総合的に考えたときに、このわずか85平方キロのエリアだけを見るよりも、やはり、もう少し俯瞰で見たときに、このエリアは大変ポテンシャルのあるところであると。恐らく日本の中でも数少ないエリアじゃないかなというふうなことが言えるんじゃないかなと思いますね。ですから、その視点で都市計画を見る。都市計画というのは、今日明日の話を語るわけじゃなくて、10年20年、あるいはまちづくりというのは、100年の計であるという言い方もありますから、そういう視点で改めてこの木津川市というのを見直す必要があって、そういうことはやはり、前提条件として、それに基づいて具体的にどういうふうに考えていくのかというロジックをはっていくのがいいのではないかなというふうに思います。

○宗田会長 ありがとうございます。まちの歴史と現状のところで、もうちょっと書き込めると思いますし、確かにおっしゃるように、奈良、京都、そして和束の話もされましたが、学研の精華との関係ですよね。京阪奈の一体をどう、もっと積極的に捉えるかということもあるでしょうし。帝塚山なんかの近さからすると教育環境が非常にいいところでもありますので、住宅地として、通学環境は非常にいいところだと思います。そういうポテンシャルも都市計画に生かすという視点も非常に大事だと

思います。

○西村祥一委員　私のほうも何点か意見をさせていただいていた部分があります。先ほどの岡橋委員のほうからもありましたけれども、都市計画マスタープランというのは、そもそも、これからのまちはこうあるべきだという基本的な考え方が、しっかりしたもの、柱があって、それに対して具体的な施策展開をイメージして、ゾーニングをしたりですとか、拠点配置をしたりですとかということで進んでいくのかなという気がしています。

その中で、過去、前回の都市マスと比べて、現在のトレンドがどうなっているとか、そういったエビデンス的なところを捉えた上で、10年間を見据えて、じゃあこういうふうに軌道修正しましょうよとか、それがもし駄目だとしても、こういう方向で見ていってまた10年後に見直しましょうよとか、そういうような方向性を示すという、そういう大きな役割の計画だと思いますので、今多分委員からも多くの意見が出ていますけれども、具体的な部分も当然必要なんですけれども、大きな視点のところで、都市計画はこうあるべきだということの、まちはこうあるべきだと、木津川市としては、こういうまちをつくっていくんですよというところをまずは押さえていただく。それに基づいて、会長のほうからもありましたけれども、合併をした上で、10年が経って、新たなまちをイメージしたらこうなりますと。その間、学研都市のクラスターなんかでも整備も進んでますけれども、その中で立地が思うようにいかなくて、土地利用が一部変わったとりとか、整備の手法が一部変わったりしたような事実もあると思いますので。そういったことも踏まえて、例えば木津駅東の地区も城山台が非常に急速に住宅開発が進んで、定住人口が増えてきているという現実もありますし、それは前回の都市マスのときには、想定していなかったことだと思いますから、それを受けて、例えば木津駅東口の玄関口としてのふさわしいやり方はどうですかとか。それも城山台のみにターゲットをあてるのではなくて、やはり商業的な利用をするのであれば、その客層のエリアはどこまで想定するかとか、そういうこと

も当然影響してくると思いますから、そこまで深い検討なり、分析なりをした上でというのは、非常に難しい部分があると思いますので、例えばそういう方向性を示すとか。先ほど言いましたけれども、会長からも出てますけれども、そこに一人勝ちにしないような、木津川市全域の中で、各それぞれの拠点が役割分担のもとに、これからも引き続き市の機能を担いながらまちが活性化するような、そういった役割分担的なこともイメージしながら書けると、非常に好ましいマスタープランになるのかなという気はしております。ただ私も詳細、内情までは分かりませんので、どこまで実現的に、本当にできるかというあたりは、課題としてはあると思うんですけども、できればそういう形での取りまとめ方というのも少し考えていただけると、よりよいマスタープランになるのかな、とは思います。以上でございます。

○宗田会長　ありがとうございます。専門家らしい、分かりやすく、つまびらかな御説明いただきましてありがとうございます。私がやるべきことをちゃんと御説明ありがとうございます。それでいいますと、例えば20ページに用途地域のことが書いてあって、ここはまさにいい御指摘でしたが、用途地域の変更をこの都計審でも度々やってきたんですね。その経緯がどうだったかというのを、10年間どうだったかということを見ることも必要ですし、それから23ページには地区計画が載っているんですけども、これも面積を書くぐらいだったら、いつどの段階で作ったかということもとても大事で、それぞれ都市計画的な手法を使って整備してきているんですね。どうもそれなりの金額、予算をかけた調査事業で委託をしているんですが、そこがうまく機能していなかったみたいで、十分調査ができていないという体たらくな状況なんです。ですから、急速改善を求めて正しい、契約不履行がないような形で、私も監督をしていかんといかんと思います。ちょっとそれは当然、御指摘いただいたように10年前と比べてどうかというような検討作業がつまびらかにできてないといかんと思いますので、丁寧に点検していただいて、早急に都市計画マスタープランらしい内容を整えていきたいと思います。ありがとうございます。もう時間になっておりま

すが、警察、消防からも一言ずつ何か。

○大江委員　意見というのはいないんですけれども、私も木津警察署にまいりまして2年目になるんですけれども、新しく宅地開発したところは、立派な道路ができておるんですが、旧来の住宅地ですね。かなり道路事情が悪いなと思うので、その古い道路の整備を見据えた都市計画を今後出されればいいのかと考えております。

○宗田会長　市道335号線、市役所前の道のことをおっしゃっていて、これは注意したいと思います。消防もお願いします。

○勝山委員　特に大きな意見等はございませんけれども、今警察署長が言われたように、同じような話になるんですけれども、城陽井手木津川バイパスの早期の開通や、それと各地域に緊急車両がスムーズに到達することができる、特に狭い道路の拡幅整備、これを望むところでございます。以上です。

○宗田会長　消防車が出やすいような前面道路を整備せよと、重要な指摘です。ありがとうございました。公募委員のお二人、どうぞ。

○菅野委員　時間がないようなので簡単に。要望というか、入れさせていただこうと思うのですが。東地区に産業地区ができるという構想になっているようですけれども、あそこに地元の人を雇用していただけるような、そういう企業を誘致していただきたいというのが一つ。それから北地区のほうは、私も関係してやっているのですが、保全関係、あそこは非常に優れたというか、自然がいまだに残っておりまして、カスミサンショウウオですとか、それからフクロウですとか、そういう動物、植物がまだたくさんおりまして、そういうものを保全していくことを我々は今やっているんですが、あそこもできるだけ、市民の人が、みんながあそこへ遊びに来て、自然を楽しんでいただくというような場所にしたいと思っております。

○伊藤孝子委員　大変勉強になることを聞かせていただいてありがたいと思います。ただ私は地元で育って、地元で結婚して、ずっと木津にいますけど、やっぱり木津って、何一つつくるにしてもスケールが小さすぎて、いろんなものに対して。人を

集めるには、これだけ周りがみんな車社会なのに駐車場が少ない。もし、これから10年間こういうところに建てる、と思っではるんでしたら、もっとスケールの大きいものを建てていただきたいなと、そういう計画を持っていただきたいと思うんです。木津駅前もあそこまで階段を登って、また降りて、電車が見えてても走ってても絶対に乗れないような状況、昔、私たちは、地下をずっと上って、駅の階段を上がってすぐに乗れたような状態なんですけど、どうしてああいう建て方になったのかというのも、私たち主婦だけのお話なんですけど。そういうのとか、駅前に何もゆっくりできるようなところがないというか。私は病院に勤めているんですけど、木津駅まで15分ぐらい歩かないといけなところなんですけど、結局木津駅に何があるんですかといって、そこでお茶をしたいとき、電車を待っている間に何か、商店街みたいな大きなものがあれば、そこでうろうろしながら電車を待てるとか。分からないですけど、ずっと思ってきたことは、そういう計画がどうしてスムーズに、みんなが思っていることなのに進んでいかなかったかというのが、すごく残念でなりません。

○宗田会長 ありがとうございました。木津町の時代は、本当に小じんまりとしていたという感じがよく伝わって、よく分かりました。ありがとうございました。それでは、皆さんに御発言いただきまして、時間もオーバーしてしますので、これで終了しますが、これからも、ぜひいろんな御意見をいただいて、どうすれば実現できるかということをお一人おひとりの皆さんの知見で何か御提案いただければと思います。御協力いただきまして、本当にありがとうございました。それでは、これで議事を終了させていただきます。その他のことに関して、都市計画課から御説明いただきます。

○島川担当課長 確認なんですけれども、本日の都市計画審議会が終わりまして、週明けにパブコメを実施する件について、市の内部のほうで政策会議をする予定をしておりまして、11月27日からパブコメを年内いっぱい予定をしておるんですけれども、今回の審議会の流れの中で、どんな落ち着け方をしたらいいのか、ちょっとそのところが。今はこの素案でパブコメを実施していく予定で進めてはいるんですけれ

ども、今日の皆さんの御意見を聞かせていただいている中で、ちょっと今後、どんな進め方になるのか迷走しているところなんです。

○宗田会長　　じゃあ一旦、委託業者さんもおられるだろうから、直せるところまで直してみましようか。27日にこだわる必要はないかもしれません。今日が20日ですから、1週間後ということですよ。1週間でどこまでできるかという議論がありますけれども、それこそ能力の高いプロだったら、十分書き換えられると思いますが、資料もそろえられると思いますが、それなりの人数と専門家をそろえないとできないことです。完全に不可能だとは思わない。だから、25とか6ぐらいまでに出たものを、我々委員のところにも全部見せていただく。最初、私見ますけど、書き換えられるという話の一つ。そもそも27日にこれをかけるのが無理だから、1週間か2週間、先に延ばしましょうというのも、もう一つのやり方としてあると思うんです。パブリックコメントを始めるのを1週間程度延ばすというか。さっき岡橋さんが言っていたような、そもそも多くの自治体でやっているように、これ全部をパブコメにかける必要はないので、小冊子のようなものにまとめて、それで出したらどうですかという。もうちょっと分かりやすいような印刷物を作って、それでパブコメでまとめたらどうですか。これに関して見たい人は、ホームページでここをクリックすると見れますよというように、アクセスできるというようなやり方のほうが親切かなと。いきなり市民がこれを渡されたって全部読んでパブコメ、というのは厳しい。

○竹谷次長　　11月27日からパブリックコメントを実施するんですけれども、これは事前にオープンにしておいて、広報誌にも掲載していることですので、これを延ばすということは、まず難しいと考えております。したがって、できる範囲で修正をさせていただきますけれども、27日のパブリックコメントスタートはさせていただきますと考えています。あと1か月間ですね、パブコメの期間がありますので、この内で修正作業をさせてもらえればありがたいと考えております。

○宗田会長　　もちろん、それで皆さんよろしいですか。27日までに直せるところ

は、徹底的に直していただくということをお約束いただいて、一旦それで修正したものは、委員全員にお配りするという形でいけばいいと思います。

細部に関しては、私と事務局で相談して、決めて御連絡させていただくということでもいいかと思います。27日にパブリックコメントは必ずするということで了解しました。

ほかに何もないようでしたら、そろそろ進行をお返しするということでお願いしたいんですけれども。

○酒井委員　ただいまの担当の事務局とのやり取り、確認したいんですけれども。

25日の政策会議はそのまま進める。結果として27日からのパブコメや、私たちの意見聴取も日程はそのままだと。それまでにできたところの修正は、委員の我々に配付はされる。そして、12月末までの期間のパブコメや照会の結果、当然修正が再度されるわけなんですけれども、それが出てくるのは、年明けですね。

○宗田会長　次に我々が集まるのは、1月22日ですよ。まず25日の政策会議、27日のパブコメに際して、今日までの意見を、この会議までの意見を全部修正したものを作っていただく。そこにももちろん漏れているところもあるかもしれないので、一つや二つ。資料が、ここはまだ集まっていませんというのがあるかもしれない。とにかく全力を持って改善してもらったものをちゃんと業務委託どおりやっていただくということにして、それはちゃんと監督しましょう。その結果、できるだけいいものをパブコメに、27日からかけます。我々も意見を言います。そのまとめたものを1月22日にかけて、恐らく1月の連休明けぐらいに御説明に回りますということじゃないんですか。

○島川担当課長　パブコメにかける案につきましては、もう今回の意見を踏まえて、できる限りで修正できた部分を修正させていただくということで、残った部分につきましては、パブコメ期間中に修正して、最終、1月22日の都計審にかけるという方向で理解しておいてよろしいですか。

○宗田会長　　できるだけ、とにかく改善しないと22日は紛糾しますし、審議会を通らないということも当然ありますので、我々としたら、ちゃんと最善を尽くすための用意をしますが、事務局にもそれをお願いしたいということを申し上げておきます。

○島川担当課長　事務局側につきましても、できる限り1月22日には、何とかして通していきたいという思いで心積もりしておりますので、よろしくお願いいたします。

○北岡課長補佐　どうもありがとうございました。それでは、閉会に当たりまして、滋井部長が御挨拶を申し上げます。

○滋井部長　建設部長の滋井でございます。宗田会長様をはじめ、委員の皆様方におかれましては、長時間にわたり、慎重な審議をしていただき本当にありがとうございました。

本日は、本当にいろいろな御意見、御指摘をいただきました。我々事務局といたしましては、これらをしっかり肝に銘じて、次の第2次木津川市都市計画マスタープランの案をしっかりとまとめていきたいというふうに考えておりますので、引き続き委員の皆様方には、御支援、御協力を賜りますようお願いいたします。

甚だ簡単ではございますが、終わりの御挨拶ということで、皆様方の御健勝、御多幸を祈念いたしまして、閉会の御挨拶とさせていただきます。本日は、本当にありがとうございました。

○北岡課長補佐　それでは、以上を持ちまして、本日の木津川市都市計画審議会を閉会いたします。長時間にわたり御審議いただきありがとうございました。

この議事録が正確であることを証するため、会長及び議事録署名人はここに署名捺印する。

令和3年2月24日

会 長 宗田 好史 

令和3年3月5日

署名委員 尾本 尚之 